

平成22年12月15日

各 位

会 社 名 株式会社サンオータス
 代表取締役社長 北 野 俊
 (J A S D A Q コード番号 : 7623)

問 い 合 せ 先
 常務取締役管理本部長 古 川 晴 男
 TEL(045)473-1211 (代表)

平成23年4月期第2四半期累計期間の業績予想と実績との差異に関するお知らせ

平成23年4月期第2四半期累計期間(平成22年5月1日～平成22年10月31日)の業績予想(平成22年6月18日付当社「平成22年4月期決算短信」にて公表)と、本日公表の平成23年4月期第2四半期累計期間の実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成23年4月期第2四半期累計期間の連結業績予想と実績との差異等

(1) 第2四半期累計期間(平成22年5月1日～平成22年10月31日)

(金額単位・百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前 回 公 表 予 想 (A)	14,500	100	100	70	22.00
実 績 値 (B)	15,149	130	120	33	10.38
差 異 (B) - (A)	649	30	20	△36	—
差 異 率	4.5%	30.6%	20.7%	△52.8%	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成22年4月期第2四半期)	15,214	74	68	37	11.64

(2) 差異が生じた理由

SS(サービステーション)部門の石油製品の売上高は、原油価格の上昇が販売価格にも一部反映し、当初想定した販売単価を上回って推移するとともに、大口需要家向け売上の増加も加わって、当初予想を上回りました。

輸入車ディーラー部門では、国内の新車販売台数は、エコカー減税制度等の経済対策が一定の効果を発揮し、ハイブリッドカーなどの需要が急回復しましたが、当社グループが販売する3ブランドの輸入車に関しては、これらの対策の効果はなく、各ブランドとも新型車種の投入が少なかったことに加え低燃費車志向などの影響も受けて、新車・中古車の販売が共に苦戦を強いられました結果、当初予想を下回りました。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は15,149百万円(セグメント間の売上相殺消去前の売上高は15,256百万円)となり、当初計画を649百万円上回りました。

利益面においては、SS間の価格競争は依然として激しく、仕入価格上昇分をタイムリーに販売価格に転嫁することができない状態が恒常化し、終始厳しい状況下に置かれました。

ディーラー部門では、売上高は未達成に終わりましたが、販売経費削減への取組も功を奏し、当初予想を上回り、全体では営業利益130百万円を計上し、当初予想を30百万円上回りました。

その結果、経常利益も当初予想を20百万円上回る120百万円となりました。

当期純利益は、固定資産除却損失及び資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額等を特別損失として43百万円、法人税等を44百万円計上した結果、当初予想を36百万円下回る33百万円となりました。

売上高については、第2四半期累計期間では、ガソリン等の販売価格上昇を要因とした増加がありました。通期予想においては、原油価格の先行きも不透明な状況であることに加え、燃料油の仕入価格や販売価格及び販売数量に不確定な要因があること、反面、輸入車ディーラー部門においては、フォード車の新車種クーガの発売や既に投入されたBMW車のXタイプ及びジャガー車のXJタイプ等の新車種の販売が下期には本格的に軌道に乗り、販売促進に繋がるものと想定されること等を勘案して修正は行ないません。

また、利益面でも、上記による売上高の確保と前期から引続きグループを挙げて取り組んでいるコスト削減策等の効果が継続するものと予想されるため、当初公表予想値から変更しておりません。

2. 平成23年4月期第2四半期累計期間の個別業績予想と実績との差異等

(1) 第2四半期累計期間(平成22年5月1日～平成22年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回公表予想(A)	8,000	10	50	10	3.14
実績値(B)	8,466	△41	66	24	7.81
差異(B)－(A)	466	△51	16	14	－
差異率	5.8%	－	33.1%	148.6%	－
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年4月期第2四半期)	7,868	△60	△1	16	5.10

(2) 差異が生じた理由

個別業績は、売上高はSS部門の連結業績において説明した内容が主な要因となり、当初予想を上回りました。

しかしながら、利益面では、特に燃料油販売における計画数量の未達成及び販売価格競争による利鞘の縮小と、車検・整備部門の売上未達成の影響により、当初予想を大幅に下回り営業損失を計上する結果となりました。

経常利益は、子会社からの配当金収入増等によって営業損失をカバーし、当初予想を上回りました。

その結果、四半期純利益も当初計画を14百万円上回る24百万円となりました。

通期の予想につきましては、通期連結業績予想と同様の見通しより、当初公表予想値から変更しておりません。

※ なお、連結及び個別の通期業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、今後様々な要因によって実際の業績は予想数値と異なる場合があります。

以上